

平成26年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471901973	事業の開始年月日	H15年10月1日	
		指定年月日	H15年10月1日	
法人名	有限会社そふいあ			
事業所名	グループホーム秋谷			
所在地	(238-0231) 神奈川県横須賀市秋谷1-7-22			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	8名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成26年8月15日	評価結果 市町村受理日	平成27年1月14日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wp/Details.aspx?IGNO=ST1471901973&SVCD=320&THNO=14201>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「GH秋谷」での基本原則</p> <p>①介護スタッフは、入居者に対して、たえず家族同様に接する。 (単なる福祉施設型の介護ではダメ。)</p> <p>②介護スタッフは、入居者の生き立ち・考え方・嗜好・日々の想いや変化に耳を傾ける。</p> <p>③介護スタッフは、入居者一人一人の生活・リハビリ目標を日々、把握し行動する。</p> <p>④介護スタッフは、可能な限り入居者と一緒に外出(散歩・買物等)するよう行動する。</p> <p>⑤介護スタッフは、可能な限り入居者と一緒に家事労働(調理補助・整理補助等)するよう行動する。</p> <p>⑥介護スタッフは、プロとしての介護技術(メンタル部分もあわせて)を日々、研鑽する。</p>
--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成26年9月30日	評価機関 評価決定日	平成26年10月30日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR逗子駅から長井方面行きのバスで20数分、前田橋バス停から徒歩5～6分ほどの緑に囲まれた高台の閑静な住宅地にあります。個人住宅を改修した木造軸組造り2階建て1ユニット定員8人のグループホームです。

<優れている点>

管理者と職員は、入居者本位の自立支援を主旨とした6項目からなる基本原則に基づいた支援に努めています。入居者の希望を聞き、大型テーマパークで1日を満喫する外出や定期的に自宅の様子を確認するなど一人ひとりに合わせて支援しています。食堂での食事が負担になる場合は居室でマンツーマンで介助するなど、入居者の思いや状況にも丁寧に対応しています。自立度の高い入居者はおやつや食事の準備など台所に立って手伝っています。食事前の歌や体操を入居者が仕切って行う場面作りなどもあり、力を活かせるように配慮をしています。看取り介護に関しても、縁があって知り合えたことを大切に考えています。家族と方針を共有しながら一人ひとりに寄り添い、入居者の最期に後悔をしない支援に努めています。今年度は数名、開設からは10数名の看取りの実績があります。

<工夫点>

今年度6月に実施した自主防災訓練は、運営推進会議と同日に行い、多くの関係者が参加できるよう工夫しています。参加した自治会長が用意してくれた自治会の水消火器を使用して消火訓練も行っています。今回の訓練で、自治会の事業所への今後の協力について理解が深まっています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム秋谷
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	住み慣れた家・地域での暮らしをそのまま延長する、家庭的な介護を実践。介護職員は入所者に対し1常に家族同様に接する。2生い立ち・考え方・嗜好・日々の思いに耳を傾ける。3一人ひとりの生活・リハビリ目標を随時、把握し行動する。4可能な限り一緒に外出（散歩・買い物・ドライブ）をするよう行動する。5一緒に家事労働（調理・整頓）するよう行動する。6プロとして介護技術（メンタル部分も併せて）を日々、研鑽している。	法人の利用者本位の自立支援を主旨とした6項目からなる基本原則を事業所の理念として掲げ、玄関に掲示しています。管理者は、全職員参加の職員会議時に、基本原則に基づいた支援について繰り返し話をしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	管理者・職員とも地元育ちで町内にも友人がおり、気軽に声をかけられる関係にある。また、地区の人々が集えるよう、町内会等にもお願いしている。	町内会隣組に加入し、地域清掃や祭り前の道普請（みちぶしん、道路整備）など、伝統的な共同作業にも積極的に参加しています。祭り当日はこども神輿が必ず立ち寄ってくれます。また、毎年地域の中学校の体験学習を受け入れ、入居者と交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	秋谷町内会隣組に加入しており、地域活動参加に努めている。お祭りなどの地域行事への参加や清掃活動などへの参加。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている。	地域担当の民生委員、入居者家族等の参加のもと、サービスの実際、評価への取組状況等についての意見交換を行ない、サービスの向上を図っている。	運営推進会議は入居者、家族、町内会長、民生委員、市職員の参加を得て2ヶ月ごとに定期的に開催しています。主に事業所の活動状況報告をしたり、地域や事業所の今後の取り組み予定などを話し合い、意見交換をしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村への提出物等においても、メールの転送や郵送は出来るだけ避け、直接担当者に手渡しをし、会話の機会を作っている。	管理者は、運営推進会議の議事録などを市の窓口を持参しています。職員とのやりとりの機会をつくり、協力関係を築くよう取り組んでいます。入居者の担当ケースワーカーとも連携を密にしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束とは何かを日々の業務や職員会議等の機会に話し、入居者を特別と受け止めずにありのままを受け止めるよう取り組んでいる。	契約書の5条に身体拘束の禁止を明記し、管理者は職員に会議などの機会を通じて周知を図っています。また、入居者に止むを得ず待っていただく場合なども、きちんと理由を伝えて納得してもらえるように説明することを職員に指導をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者への虐待が見過ごされないよう気を付けており、起きる事がないようにしている。	管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者への虐待が見過ごされないよう気を付けており、起きる事がないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者や職員は、様々な事業や制度について学ぶ機会を持ち、個々に対して必要性があるか関係者と話し合い、それらを活用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を解消できるよう、わかり易く説明を行い理解・納得をしてもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	普段の何気ない会話や面会時等のお話の中で希望・要望を汲み取るよう努力し、日々の生活に反映させている。	入居者との普段の何気ない会話などから意向などを聞き取り、生活に反映するようにしています。家族とは面会の時や電話連絡をする場合などにも意見や要望を聞くよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会(2ヶ月に1回の職員会議)等の機会を設け、反映させている	管理者は、職員からの運営に関する要望を日常の会話などから把握するように努めています。代表者も職員会議に出席し、職員の意見に耳を傾けています。業務の流れの見直しや改善についても、職員の意見を受けて随時反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、管理者・職員の努力や実績、勤務状況を把握し、働きやすい職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者は、管理者・職員の能力を把握するよう職員会議等の機会に努め、法人内外の研修または、日々の業務内にて実践することでトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学の段階から現在の問題を傾聴し、入居後のイメージを共に作り上げながら安心して入居していただけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学の段階から本人と家族が望むことを把握しながら、本人に合わせたサービスを考えている。また、本人の変化に合わせてその時々合ったサービスを職員間で話し合い本人・家族と共に作り上げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員と入居者という関係ではなくそこで一緒に生活する仲間として日々笑ったり・泣いたり・怒ったりと共感しあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族が良好な関係を継続できるようサポートするだけでなく、家族が職員と協力をして本人を支えるような関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居したとしても友人との連絡や面会、また自宅へ行くなど出来る限り対応している。	入居者が毎年楽しみにしている同窓会参加のための送迎を支援したり、入居者と一緒に定期的に自宅の様子を確認に行くことなど、入居後も馴染みの人や場との関係が途切れないように配慮し支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の個性を把握したうえで孤立しないよう仲間作り・話題作りを職員がサポートする事で、お互いが一緒に生活する仲間と考えてもらえるよう日々介護を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	当該GHでは看取り対応でありこれまでに中途退去したケースは皆無である。なお「家族たより」は亡くなられた家族の方に、かかさず郵送している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。墓参り・買物・演劇鑑賞・美容院など要求は個々だが可能な限り対応しているし、他の親族・知人等の入居相談も個々に対応している。	美容院や生活用品の買い物、観劇、孫と成人式記念写真撮影など、一人ひとりの思いや希望を把握し可能な限り対応しています。意思の疎通が難しい場合も、繰り返し入居者の反応を探り、好きなキャラクターが確認できた事例があります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握と本人の要求が介護サービスの原点だと肝に銘じている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活を見ていく中で個々の変化を見逃さずその都度、対応している。また、職員会議等で短期的・長期的な視点での対応も話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人と関わる方々とその都度話し合い既存の介護ではなくあくまでも生活をどう楽しく暮らせるかを考えた介護計画を作成している。	本人、家族に希望を聞き、職員の意見、気づきなど検討をして介護計画を作成しています。課題・援助目標に対して、より具体的なサービス内容を設定しています。日々の記録で確認しながら、職員会議でモニタリングを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を介護記録簿及び連絡簿に記入し、情報をリアルタイムで共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	常に変化は起きるものと考え、機械的な対応ではなくニーズに合わせた対応を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議や近所の方との関わりの中で地域資源を把握し個々に合った支援を行なっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	隔週の医師による往診と週1回の看護師による訪問看護を実施し入居者の健康管理に務めている。なお、突発的な病気・症状については其々の専門医療機関に家族との連絡をとりつつ適宜実施している。訪問歯科医は週1回往診している。	現在、入居者全員が納得の上でかかりつけ医を事業所の協力医に切り替えています。精神科や整形外科などの専門医に受診の際は、家族と連絡を取りながら職員が対応をして、適切な医療を受けられるように支援しています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は日々の業務の中で入居者の変化を捉え、職員間だけでなく訪問看護師とも情報を共有し問題を解決している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取り時期に入ったと判断した場合は、家族等と医師を交えて話し合い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、支援に取り組んでいる	看取り介護に関して、協力医の指示の下、家族と方針を共有しながら一人ひとりに寄り添い、入居者の最期に後悔をしない支援に努めています。今年度は数名、開設からは10数名の看取りの実績があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の急変や事故発生時に備えて、緊急マニュアルを全ての職員に徹底するとともに応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災や地震等の災害時に、利用者が避難できるよう定期的（年2回）に消防・防災訓練を実施するとともに、地域との協力体制を築いている。	今年は2月に夜間訓練を行っています。6月は参加した自治会長が用意してくれた水消火器も使い、自主消防訓練を実施しています。備蓄は水、缶詰などを用意していますが、必要な物品、数量の確保と管理に関しては、今後の検討としています。	今後も自治会との協力体制を継続していくことが期待されます。事業所として必要な備蓄品の確保と管理に関して検討工夫も期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個性を大切にし本人が気持ちよく過ごせるよう声をかけている。	入居者を「縁があって知り合えた人生の先輩」として敬う気持ちで接しています。一人ひとりの個性や考え方に合わせてケースバイケースの対応をしています。職員の不用意な発言や不適切と思われる対応が見られたときは、管理者が注意や指導をしています。	入居者の記録やファイル類は、リビング内の職員の事務机上での保管・管理をしています。個人情報の取り扱いや管理について、鍵のかかる書庫などでの保管を検討することも期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常の会話やふと漏らす言葉を聞くことで思いや希望を実現できるようお手伝いをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合ではなく、入居者の都合に合わせて対応しているので同じ毎日は繰り返していない。一日いちにち楽しく過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。希望者には美容室にておしゃれ染めやパーマ等の支援もしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が一番の楽しみなので、外食やうどん打ち・流しそうめん等を楽しむ食事も取り入れている。また、出来る事は入居者自身に行ってもらうことで生活リハビリとしてADLの維持につなげている。	おやつや食事の準備など、入居者は台所に立って手伝っています。食事前の歌や体操も入居者が仕切っています。普段の手作りの食事のほか、うどん打ちや流しそうめん、外食などのお楽しみも適宜取り入れ、食事が楽しめるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その人なりの最高の体調を維持するために、食事量・栄養バランス・水分量が一日を通じて確保できるよう、食事・おやつ作りをしている。また、本人の希望に応じて献立を考えるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。また、週1回の訪問歯科にて口腔内の状況をプロの目でケアをしてもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた排泄介助を行なっている。	トイレでの排泄を基本と考えています。介助が必要な方も一人ひとりの排泄パターンやサインを把握して、声掛けや誘導をしています。入居後の職員の的確な支援により、おむつ使用だった方が現在は布パンツで自立している事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	個々の希望を可能な限り受け止め対応している。入浴を楽しむ事で本人が穏やかに過ごす機会と捉えている。	現在1階浴室は改修工事のため2階シャワー室で支援をしています。改修後はリフト浴のほかバリアフリーとなり、より安全に入浴ができることとなります。拒否のある場合は無理強いをせず、同性介助などにも柔軟に対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼夜逆転や不眠等が起きないように日中は散歩やドライブまたはおしゃべりやビデオ鑑賞・運動等を取り入れ夜にゆっくり休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の変更時には全職員に薬の目的・副作用・用量について説明している。また、認知症薬や向精神薬については様子観察を行い、本人に合う合わない等の細かな変化を見ていき適切な対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の希望や出来る事・したい事を理解し、家事手伝いや行事や散歩等を行い一人ひとりに合った支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気が良い時の散歩・ドライブ・四季の外出行事や一人一人の要求に対応した外出支援を日常的に行なっている。	天気が良い時やその日の入居者の状況に合わせて散歩や近隣ドライブに気軽に出かけています。つつじ鑑賞や紅葉狩りなど季節の外出のほか、入居者の希望で大型テーマパークに行き、1日楽しむといった個別の外出も支援行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が希望する時は職員がお手伝いしながら行ってもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間には季節の花や色紙等を置いている。季節に応じて温度管理も行なっている。また、トイレは清潔に保つことで気持ちよく使用してもらうよう気をつけている。	リビングの掃き出し窓は大きく、陽光が降り注ぎます。排泄の後処理や消臭を徹底し、気になる臭いがこもらないように換気をしています。改修前からあるリビング内の数本の柱には、クッション素材を巻き、安全にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間には椅子やソファを各所に配置し、その時の本人の気分等に合った居場所作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時やその後も本人や家族と相談しながら居室の整理や模様替え等を行なっている。	ダンス、鏡台、机とイスのセットなど使い慣れた家具を持ち込んでいます。オーディオ機器を整えて趣味のクラシック音楽を楽しんだり、棚にバッグや生活用品を使いやすいように整理してあったりと一人ひとりの趣向に合わせた自由な暮らしぶりが感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々の能力を把握したうえで生活しやすいよう物の配置変更や職員の声かけや見守りにて安全に生活できるよう工夫している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	①記録ファイルが鍵のかかる書庫に保管されておらず、個人情報の管理が不十分である。第三者が読むことが可能であり、漏洩の危険性がある。	①保管スペースの確保と必要な書庫の購入を検討し、個人情報保護について職員会議等で話し合い、しっかりとした認識と管理に努める。	①開所10年が過ぎ、不要の物品等を全職員が協力し整理を行う。必要な物品を適切な場所へ置き、無いものについては購入をして個人情報を適切に管理していく。また、定期的に職員会議にて個人情報について勉強をし、共通認識を持ち適切な運営に繋げていく。	12ヶ月
2	13	①地域に協力してもらい年2回の避難訓練を行なっているが、災害が起きた場合の避難方法や食料等の備蓄が不十分である。	①年2回の避難訓練の中で避難方法等を見直し、入居者の安全を守るよう努める。また、地域との交流の中で備蓄する食料やその他の物品をリストアップし揃えて行く。	①様々な災害の可能性を考慮し、それぞれに合った避難方法のフローチャートを作成し入居者が安全に避難が出来るようにする。また、食料については保存が利く物を含め、1週間程度の備蓄を考え購入する物をリストアップし用意していく。その他に必要な物品も検討し入居者分を用意していく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月